



日本の象：2021年の最新情報



親愛なる皆様へ

アジアゾウのはな子は、東京の動物園の小さな殺風景なコンクリート製の囲いの中で、60年以上の人生をたった一人で孤独に過ごしました。2016年に私たちが彼女の窮状を知ったとき、彼女の悲劇的な物語は世界中の注目を集めました。最も悲惨なことに、2016年5月、私たちが彼女の社会的飼育のために前向きに取り組んでいた矢先に、彼女は亡くなりました。しかし、彼女の遺志は、生命として尊厳を守られていない現状を訴えています。日本で依然として囚われの身にある象の現状を私達は訴え続けていきます。はな子を偲んで、私たちは2017年8月12日、世界象の日でもある、「[Elephants in Japan: In Memory of Hanako](#)」を立ち上げました。この報告書には、それ以降の私たちの取り組みと、日本で飼育されている象の現状（特に独房に入れられている象）、そして今後のビジョンについてまとめました。

今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

Ulara Nakagawa

Elephants in Japan ファウンダー

Table of Contents

象の生物学者キース・リンゼイ博士からの最新情報	3
.....	
象に関するの最新情報	4
.....	
請願書	7
.....	
影響	8
.....	
象がない動物園	9
.....	
継続的な課題	10
.....	
今後の展望	11
.....	



宇都宮動物園で単独飼育される象「宮子」

象の生物学者キース・リンゼイ博士からの最新情報

日本で 孤立し飼育されている象に関する報告書が発表されて以来、私は日本で象の社会的飼育レベルを向上させる動きがある事に勇気づけられてきました。しかし、国内で飼育されている象の生活を改善するためには、さらに多くのことができますし、すべきであると考えています。2017年に発表した私の提言は、現在も有効です。

21世紀に動物園が正当な役割を果たすためには、すべての動物園がその使命を大きく変えなければなりません。単に大衆娯楽のための展示から脱却し、生物学的に意味のある動物福祉、野生種の自然な生活に関する真に有益な教育、現場での保全活動への意義ある支援を実現しなければなりません。日本動物園水族館協会 (JAZA) と関係省庁は、国際的に著名な象の生物学者や福祉の専門家と協議して、象の管理に関するガイドラインを作成すべきです。



象の囲いは、その大きさと環境の複雑さを大幅に増やし、オスとメスの両方に適した社会的グループを自発的に形成できるようにし、自由に選んだ採餌や移動の機会によって精神的な刺激を与えるようにしなければなりません。単体飼育の象の展示を止めるべきであり、施設では、積極的に他の象との交流を進めなければなりません。象の自然の生息範囲外にある飼育施設では、適切で受け入れ可能な生活環境を提供することは究極的に不可能であるため、いかなる理由であれ、飼育下での生活を目的とした象の輸入と繁殖は中止しなければなりません。

また、象の飼育を段階的に廃止していく中で、象が比較的人道的な環境で最期を迎えることができる真の象の保護区を日本で整備することも真剣に検討すべきだと思います。

キース・リンゼイ博士 (象の生物学者、報告書「[Solitary Elephants in Japan](#)」著者)

象に関するの最新情報

「Solitary Elephants in Japan」の出版以降、活動の対象となった14頭の象のうち4頭が亡くなりました。

はな子/花

(アジアゾウ、メス)
は、2017年に福岡市動物園にて46歳で亡くなりました。立つことができず、足の病気に悩まされていました。5年前から一人暮らしをしていました。

イズミ

(アジアゾウ、メス)
は2017年、立てなくなったことが原因で、桐生が岡動物園にて61歳で死亡しました。56年前から一人暮らしをしていました。

博子

(アジアゾウ、メス)
は2018年、足の病気が原因で、天王寺動物園にて48歳で死亡しました。彼女は9年前から一人暮らしをしていました。

姫子

(アジアゾウ、メス)
は2020年、姫路市立動物園にて43歳で死亡しました。足の病気を患っていました。26年前から一人暮らしをしていました。

.....
私たちが活動を開始したときには、すでに5頭目のゾウが亡くなっていました。

メリー(アジアゾウ、メス)は2016年、足の健康状態が悪くなったことが原因で、池田動物園にて52歳で亡くなりました。彼女は50年前から一人暮らしをしていました。

現在、日本では12頭のゾウが社会的に孤立して暮らしています。活動レポートで紹介した7頭のゾウと、その後確認した5頭の象が、今も孤独に暮らしています。

宇都宮動物園にいる**宮子**(アジアゾウ、メス、48歳)は、48年間一人暮らしをしています。

能美市のいしかわ動物園の**サニー**(アジアゾウ、メス、42歳)は、32年前から一人暮らしをしています。

長野市茶臼山動物園の**フー子**(アジアゾウ、メス、42歳)は、13年前から一人暮らしをしています。

遊亀公園付属動物園の**テル**(アジアゾウ、メス、43歳)は、21年前から一人暮らしをしています。

浜松市動物園の**ハマコ**(アジアゾウ、メス、50歳)は、13年前から一人暮らしをしています。

マリー(アジアゾウ、メス、31歳)は、とくしま動物園在住で、13年前から一人で暮らしています。

福山市立動物園の**ふくちゃん**(アジアゾウ、メス、23歳)は、20年前から一人暮らしをしています。注:ふくちゃんは、感染症の結核を患っているため、他の動物園に移すことも、他の象を連れてくることもできません。

岡崎市東公園動物園の**ふじ子**(アジアゾウ、メス、53歳)は、39年前から一人暮らしをしています。1982年にふくちゃんのいる福山市立動物園から移ってきました。彼女を35年以上世話してきた飼育者は2019年に**引退**しました。

みどり(アジアゾウ、メス、21歳)は宮崎市フェニックス自然動物園に住んでいます。2014年にオスのゾウ「たいよう」が急死して以来、7年間ひとりで過ごしてきました。2018年、みどりは神戸市立動物園に貸し出され、同園のオスのアジアゾウ「マック」と交配しました。みどりはその1年後に故郷の動物園に戻ってきました。

盛岡動物園の**マオ**（アフリカゾウ、メス、19歳）2018年にオスの仲間であるタロウが亡くなって以来、一人暮らしをしています。動物園では彼女に**人工授精**を試みています。

伊豆アニマルキングダムの**オシー**（アフリカゾウ、メス、50歳）は、31年間一人暮らしをしていて、強い典型的な行動を示しています。

東北サファリパークの**ララ**（アフリカゾウ、メス、39歳）は3年前から一人暮らしをしています。

日本のいくつかの動物園では2頭以上の象が飼育されていますが、多くの場合、象同士は別々に飼育されているため、実際には単独飼育の象の数は上記の12頭よりも多くなっています。例えば、今回取材した象うち1頭は、仲間と思われる象と時々交流することが許されますが、普段は孤立しています。

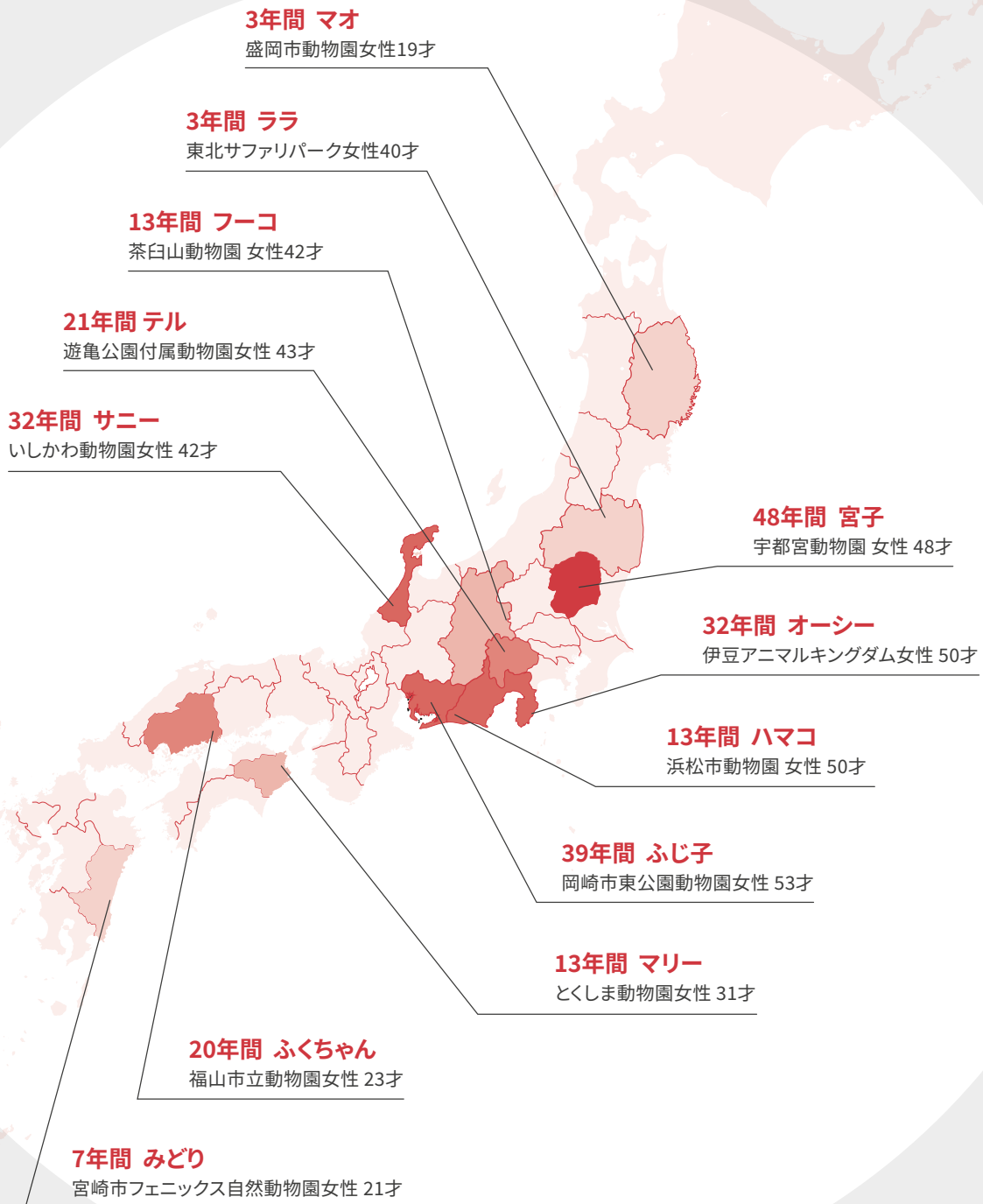
マック（アジアゾウ、オス、24歳）と**ズゼ**（アジアゾウ、メス、30歳）は神戸市立王子動物園に住んでいます。2頭のゾウは物理的には離れていますが、現在は時々交流されています。2018年から2019年にかけて、動物園は他の施設から借り受けたみどりマックの交配を試みました。

京都市動物園の**ミト**（アジアゾウ、メス、49歳）は、10年以上も孤独な生活を送っていましたが、今では4頭の若いゾウと生活を共にしています。



注：日本の象の現状に関する情報は、2021年3月現在のものです。

日本の動物園において 単独飼養されているゾウ(計12頭 2021年時点)



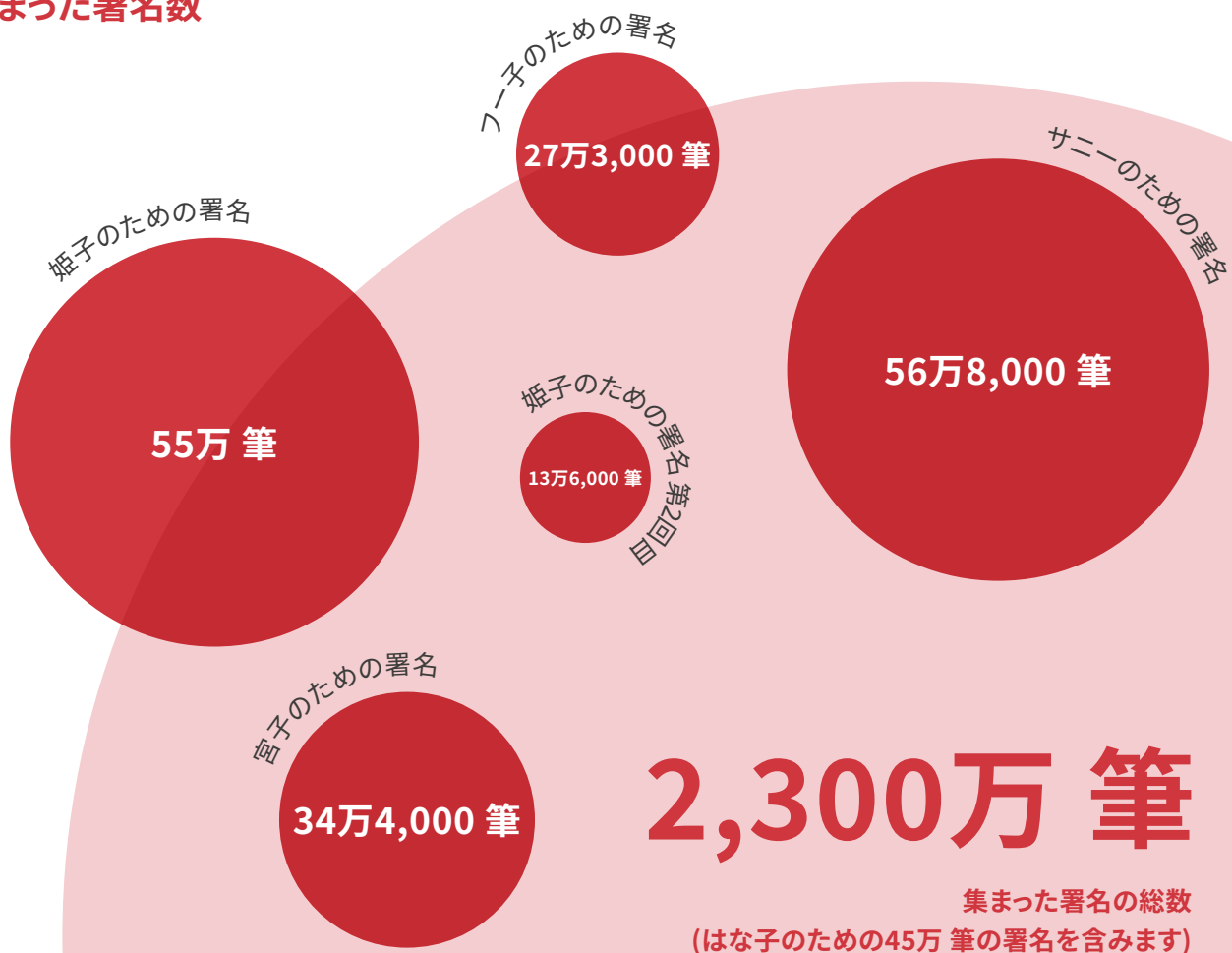
注:この情報は、象の移動や死亡などにより変化する可能性があります。

請願書

エレファンツ・イン・ジャパンでは、これまでに230万人以上の方々から、日本における飼育下の象の福祉向上に賛同する署名を集めてきました。私たちの単独飼育象に関するキャンペーンのトップ5の請願書は以下の通りです。

- ① **宮子のための請願書**は、2018年6月に宇都宮市議会、栃木県、宇都宮市動物園に届けられました。
- ② **サニーの請願書**は、2019年1月に石川県といしかわ動物園に届けられました。
- ③ **フー子の請願書**は27万3000件以上の署名が集まっています。提出は保留中です。いしかわ動物園では、大幅に改善されたという情報があったため、テルの請願は行いませんでした
- ④ **姫子の請願書**は、2020年10月に姫路市役所、JAZA、姫路市立動物園に届けられました。
- ⑤ 2020年11月、姫路市立動物園とJAZAに、象を追加取得しないことで**象の飼育を終わらせることを求める請願書**を提出しました。その後、動物園は姫子の代わりに象を追加で求めないことを明言しました。

集まった署名数



影響

これまで、エレファンツ・イン・ジャパンの活動は、日本の飼育下の象の福祉に顕著な影響を与えてきました。2017年末には、日本動物園水族館協会 (JAZA) が「**可能な限り、孤独な象を一緒にするよう努める**」と表明しました。さらに、2020年には、日本の動物園史上初となる、会員動物園のための**自主的なガイドライン**を制定すると発表しました。新しいガイドラインに記載されている推奨事項の目的は、動物のストレスを軽減し、その環境を自然の生息地に近づけることにあります。単独飼育の象を抱える国内のいくつかの動物園では、すでに福祉面での大幅な改善が始まっています。

例えば、いしかわ動物園では2019年2月、**サニーの囲いの中**で給餌チャレンジ、水のアクティビティ、砂の肥沃化を実施しました。さらに、日中は自由に展示場から出入りできるようになりました。動物園はサニーの健康状態を向上させるために尽力しており、私たちの提案やアドバイスを受け入れる姿勢を見せています。

遊亀公園附属動物園では、過去数年間、動物科学を専攻する学生たちと協力して、テルの展示を継続的に改善してきました。給餌チャレンジを導入したり、退屈さを軽減するために砂場を作ったりしています。2019年には、近い将来、象の囲いの大規模な改修プロジェクトを実施することを発表しました。また、動物園は**テル**が亡くなった場合には、展示を段階的に廃止することを約束しています。

象がない動物園

遊亀公園附属動物園をはじめとして、「象を飼育しない」動物園が増えています。かつて孤独な象「イズミ」と「はな子」を飼育していた桐生が岡動物園と井の頭自然文化園は、象の展示を永久に終了しました。また、姫路市立動物園では、一頭飼いの姫子が亡くなったことにより、現在の施設では新たに象を飼うつもりはないとのことでした。メリーがいた池田動物園では、象の展示を中止し、アート作品の記念展示にしています。今年初めに象のナナが亡くなったおびひろ動物園では、象のいない未来について議論しています。

日本国内の動物園で、飼育している象の寿命が来ても代替しないことを表明している動物園は以下のとおりです。t

- ① 九十九島動植物園森きらら (はな子、2016年死去)
- ② 井の頭自然文化園 (はな子、2016年死去)
- ③ 桐生が岡動物園 (イズミ、2017年死去)
- ④ おびひろ動物園 (ナナ、2020年死去)
- ⑤ 姫路市立動物園 (姫子、2020年死去)
- ⑥ 遊亀公園附属動物園 (テルが死んだ後、他の2頭が既に死去)

継続的な課題

これまでの成果にもかかわらず、日本の象にとってより良い未来を築くためには、多くの課題が残されています。現在も、多くの象が孤独で、狭く、荒涼とした、標準以下の囲いの中で暮らしています。2020年1月、おびひろ動物園で日本最高齢の象、ナナ（アジア象、メス）が59歳で亡くなりました。過去24年間一人暮らしをしていたナナは、亡くなる数週間前から立つことができなくなっていました。

心配なのは、日本の多くの動物園がこの問題を認識しておらず、アジアから象を輸送する計画を維持していることです。野生の象の輸入を制限する国際的な法律や懸念にもかかわらず、日本の動物園は新たな象を飼育することを可能にする抜け道を見つけています。2018年、札幌市円山動物園は、ミャンマーから4頭の象を輸入し、翌年の春に新しい象舎を開設しました。**ズーチェック**は、この譲渡を阻止する活動に参加しました。しかし、彼ら関わった時にはすでに署名付きの契約が確定していました。これには、実は、京都市動物園が数年前にラオスから新たに4頭の象を輸入した前例があったのです。

その後、亡くなったハナがいた福岡市動物園は、ミャンマーから4頭の象を輸入することを**発表**しました。また、かつて博子がいた天王寺動物園も新たな象の獲得に関心を示しています。エレファンツ・イン・ジャパンは、このような広がりを防ぐための活動を支援していきます。

根本的には、国際的な象の専門家と日本の動物園関係者との間の理解不足を解消しなければなりません。エレファンツ・イン・ジャパンは、この溝を埋め、日本の皆様により多くの情報を提供し、象の飼育に前向きな変化をもたらすことができるようにしていきます。



キャンペーンマスコットの「象のポッチ」が、象の基本的なニーズを伝え、啓発していきます

今後の展望

エレファント・イン・ジャパンは今後も：

飼育下の象の状況を調査・記録する。

飼育下の象の健康と福祉を早急かつ短期的に改善するよう働きかける。

象の輸入と飼育の廃止を推進する。

飼育下の象の福祉を改善するための重要な要件について、一般市民、動物園関係者、あらゆるレベルの政府の政策立案者の認識を高め、日本の伝統的な動物園での象の飼育が最終的に廃止されるように働きかけること。

可能な限り、エレファント・イン・ジャパンは、個々の動物園、日本動物園水族館協会、象や動物福祉の専門家、学識経験者、政府のあらゆるレベルの議員や官僚と協力して活動します。

エレファント・イン・ジャパンの最終的な目標は、南日本の亜熱帯で種に適した気候の中に象の保護区を設立し、日本に残された象に可能な限り質の高い生活を提供することです。私たちのビジョンは、現在日本で飼育されている象の生活を向上させ、日本における野生動物飼育の福祉のパラダイムを変えることです。

九州（日本南部の島）の気温は、冬は平均9°C、夏は平均30°Cです。



Elephants in Japan

In Memory of Hanako

info@elephantsinjapan.com | www.elephantsinjapan.com

© 2021 Elephants In Japan

カバー写真:故 はなこ 井の頭公園動物園 撮影:ベンジャミンパークス